1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300504
法人名	有限会社　プレア企画
事業所名	グループハウス　およりの郷Ⅱ
所在地	〒８５５－０８７４　長崎県島原市鎌田町４１３３番地 （電　話）０９５７－６５－５１１６

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット　日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801　長崎県島原市高島2丁目7217　島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】（平成20年　9月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１８　年　　１　月　　１　日	
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計　　９　　人
職員数	14　人	常勤　4　人、　非常勤　10　人、　常勤換算　4,8人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	１階建ての　　階　～　　１階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	15,000　円		その他の経費	光熱水費２００円／1日・実費
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（ 9月1日 現在）

利用者人数		９ 名	男性	２ 名	女性　６ 名
要介護1		4　名	要介護2	2　名	
要介護3		2　名	要介護4	0　名	
要介護5		0　名	要支援2	1　名	
年齢	平均	84.4 歳	最低	80 歳	最高　90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

普賢岳や有明海が一望でき、噴火後の住宅地の一角にあり、特別の場所だと感じさせない、一般的な家である。運営者は、長崎県の認知症に関する中心的な活動をされており、職員を始め外部の意見を受け入れ、運営に活用している。又、他ホームとの交流を積極的に取り入れ、囲い込みがなく解放的である。職員の自主性を重んじており、入居者の精神面に配慮して日々ケアの向上に取り組んでいる。平成21年よりディサービスを開始予定であり、地域との繋がりの充実が期待できる。庭には犬や猫の小動物と触れ合いながら、穏やかに過ごす入居者の姿から生活の安心感が溢れるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	評価をホームの向上の一端と受け入れ、真摯に受け止めている。改善計画シートを作成し、前回の改善点を話し合い、必要性を判断して項目（自己評価の取り組み・運営推進会議の意見を業務の向上に活かす・行政との連携を深める・家族との連携強化・家族の意見の反映等）を検討し、計画的かつ積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価をする事で日々のケアを振り返る事ができ、ケアの向上に活かしている。それぞれの職員が自己の見直しや、日頃実施している事を話し合い、管理者と計画作成担当者が相談し、報告書を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	基本的には2ヶ月毎に、市町村の代表・駐在所・家族の代表・運営者・職員が参加して意義ある会議を開催している。家族や市町村の担当者から建設的な意見が聞け、成果が上がっている。しかし、地域との交流面を考えると、参加者に地域の住人代表を追加され、行事や地域資源等の情報収集をする事で、ホームの活動の幅が広がる事が期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	殆どの家族が利用料を持参しており、来訪時に意見や要望を聞いている。家族は入居に至る事で安堵しており、あまり意見はないが、「入院時は最後まで見て欲しい」等気持ちをストレートに話している。連絡帳に記入し、職員間で話している。退居した家族が時々ホームを訪れる事があり、良好な関係を築いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	住宅地にあり、特別の場所と感じることなく、散歩で菊の見物に行き、菊を頂いたり、子ども会の餅つき時にはホームまで持って来られる事もあり、自然なご近所付合いをしている。又、中学生の体験学習の受託やボランティアの受け入れ等、地域の交流を図っている。平成21年から地域の人が利用できる、ディサービスを開始予定であり、ますます地域と近い存在になる努力をしている。

2. 評 価 結 果 (詳 細)

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を「老いても、障害を持っても、自分らしく暮らせるように」として、常に変わらないケアを受けながら、住み慣れた地域で過ごせるよう、理念に沿った支援を実施している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「のどか･のんびり･ゆったり」を合い言葉的に職員が共有しており、ホームの色々な場所に掲示し、家族や訪問者にアピールしている。家庭的な雰囲気の中で、その人らしく過ごすお手伝いを笑顔でしており、理念を生活の中に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街に立地し、特別の場所と感じることなく、散歩で菊の見物に行き菊を頂いたり、子ども会の餅つき時にはホームまで持って来られる事もあり、自然なご近所付合いをしている。又、中学生の体験学習の受託やボランティアの受け入れ等、交流を図っている。来年度は地域の人が利用できる、ディサービスを開始予定であり、ますます地域と近い存在に向け努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日々のケアを振り返る良い機会と理解し、それぞれの職員が自己の見直しや、日頃実施している事を話し合い、管理者と計画作成担当者が報告書を記入している。又、改善計画シートを作成し、前回の改善点を話し合い、必要性に応じ計画的かつ積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月毎に、市町村の代表･駐在所･家族の代表･運営者･職員が参加して意見交換が活発で意義ある会議を開催している。家族や市町村の担当者から建設的な意見が聞け、成果が上がっている。しかし、地域の住人代表の参加がない。	○	現在の構成メンバーは協力的でホームの向上に貢献されているが、やはり地域との交流面を考えると、参加者に地域の住人代表を追加され、行事や資源等の情報収集をする事で、ホームの活動の幅が広がる事が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は積極的に福祉に取り組み、島原半島を始め、長崎県の代表的な立場であり、市町村からの相談を受ける事が多々ある。現時点で、福祉課のサービスを利用した入居者は無く、職員にソーシャルワーカーを配置しており、必要に応じて連携の充実を図っていく準備である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの家族はホームに利用料を持参しており、来訪時に出来るだけ詳しく話をしている。又、便りの発行（不定期である）や緊急時は電話で連絡している。金銭の授受は事務所において確実に実施している。	○	家族にとって、どの様な生活を送っているか気がかりであり、興味あると思える。毎月の便りは大変であるとの事であるが、あまり形態に固執することなく、請求書と一緒に、写真や日々の状況（会いたくなる･安心するを加味した）を簡単に書き、家族がホームに興味を持つ取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は入居に至る事で安堵しており、あまり意見はないが、「入院時は最後まで見て欲しい」等気持ちをストレートに話している。連絡帳に記入し、職員間で話している。退居した家族が時々ホームを訪れる事があり、良好な関係を築いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤は固定しているが、非常勤の何名かは、関連施設を行き来している。基本的に変わらない介護を目指し、情報を共有し、入居者に負担がかからない様に気遣っている。職員が元気で明るく支援する事に注意を払い、職員のメンタル面に配慮を欠かすことなく、働き易い職場を目指している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設と共に、技術面･メンタル面･口腔ケアに関する研修を実施している。又、個別に研修に参加し、スキルアップに努めている。しかし、職員会議の定期的開催や研修資料等の共有が不十分である。	○	研修受講記録は出席者･題材･受講日･内容を記述し、職員の閲覧記録を取り、共有を図る事が望まれる。又、職員会議を定期的に開催し、検討項目を会議録として残し、ホーム独自の特徴作りや職員の質の向上が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム連絡協議会を始め、福祉関係の中心的活動者であり、様々な情報を発信している。他ホームとは歌謡ショー･芋掘り等、交流を図っている。又、研修会や風船バレー大会等同業者との交流は職員･入居者の両面で実施している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	医療機関を含め色々な所から入居希望者の相談があり、本人のアセスメントを基に話し合い、状況を判断している。希望者は何度かホームに来て頂き、周りの入居者と馴染む事を大切に考え、家族の協力を得て、交流に重点を置いて馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から言葉掛けや思いやりを学ぶ事が多く、日々のケアに活かしている。入居者との会話や接する姿から、年長者を尊敬しながら楽しい関係の確立が見受けられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にして、入居者の状況を把握することで個々のケアに努めている。非常勤の職員は関連施設と行き来している為、フェイスシートを活用してケアの共有を図っているが、記入が不十分である。	○	両施設を行き来する職員がいるため、誰が見ても分かり易いフェイスシートを作成(個々の言葉掛け･食べ物･好きな品等を含めたケアのキーポイントになる情報)して、その人に合ったケアの統一が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	聞き取りをしてケアチェック表を記述し、ニーズを抽出して介護計画の原案を作成し、家族や職員の意見を聞いている。常勤で常に見ている職員は勿論であるが、非常勤で期間が開いての勤務の職員ならではの意見は変化の把握に役立っている。その上で、介護計画を作成して、入居者に説明し家族の了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、日々の記録や職員･入居者･家族の意見や状況を判断して、達成度を把握し、次の計画に反映している。又、状況の変化に伴い、必要に応じて現状に合った計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者を中心に考え、医療連携･病院受診･家族の宿泊･外食等、安心･安定した生活の保持に向けて柔軟な対応に努めている。平成21年より地域との触れ合いが出来るディサービスを開始予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの病院受診を支援しており、現在の利用医療機関は約10件であり、かかりつけ医を大切にしている。24時間適切な医療受診が出来るように、連携を持ち安心に繋げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者は、医療連携に伴う看取りに関する指針の作成に携わり、書式の準備はある。看取りの経験は無く、医療行為が重度化すると病院で終末を迎えている。看取りに関する研修受講がなく、職員間での共有には至っていない。	○	看取りに関しては今後の課題であり、職員が一丸となっての支援が重要である。職員の携わり方や家族への精神面での支援を含め機会あるごとに話し合いや研修を実施し、様々な経験を記録(入院に至る場合･急変時等)として残し、事業所が対応できる最良の方策を共有する事が期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営推進会議の入居者の状況報告は、個人情報に配慮して入居者の名前はイニシャルで記入している。職員は年長者である入居者に敬意を払い、声掛けには注意している。排泄介助も個々に合わせ、トイレの外で待つ事もあり、プライバシーを損ねない支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を管理するルールは無く、入浴･食事のペース･日常の過ごし方は自由である。かつての経験を活かし、したい事を優先した生活の支援に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は食事に関する出来る作業(お茶･箸並べ･配膳)をしている。職員は、新しい入居者や帰宅願望の人の対応で一緒に食事をする事は出来ないが、同じ物を時間差で食べている。食事中は静かであるが、食後は楽しい語らいの時間で和やかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からは自由で夕食後の入浴ができ、希望に沿って支援している。入浴拒否者には同性介助や受診前等、様々な言葉掛けで苦慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、生活に必要な掃除や洗濯物たたみ等、得意分野を活かして、家族の一員として役割を果たしている。ホームには沢山の花が活けてあり、趣味を生きがいに繋げている。買い物やレクレーションの参加等、活動の場を設けながら活力を引き出す楽しみ事や役割を取り入れ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームだけでの生活に固執せず、他ホームへの訪問･ドライブ･日帰り入浴･外食･買い物･散歩等できるだけ戸外に出かけ、様々な触れ合いをし、気分転換と五感刺激の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者がいるが、徘徊までは至らず、職員の声掛けで施錠はしていない。駐在所や近所の住人にお願いしており、注意を払いながら自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで火災･避難･救急法･夜間想定の訓練を実施している。自動通報装置やスプリンクラーを設置し、設備面が充実している。天災の訓練や備蓄関係は取り組んでいない。	○	地震を想定した訓練や危険箇所の点検実施、非常時の備蓄(水･食料･携帯ガスコンロ等)に関して、携わる職員で話し合い、繰り返し訓練や確認する事で、非常時の戸惑いの回避に繋げる取り組みが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。現在の入居者は普通食であり、制限のある人はいないが状態に留意して対応している。又、水分量は1500cc以上の摂取に注意を払い、不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静な住宅地に立地し、気になる騒音は無く、リビングは天井が高く開放感があり、日当たりが良く匂いや空気の淀みを感じる事は無い。入居者が活ける花々や、コスモスの張り紙から季節を感じる事が出来る。気分の趣くままに過ごせる場所の確保があり、仲間と会話しながら猫と戯れる入居者の姿が居心地良さを物語っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの家庭環境を思わせ、居室とリビングを行き来しながら、入居者の安心して過ごせる場所として留意し、家具の多い部屋やあまり無い部屋とそれぞれであり、個性ある環境作りをしている。		